

# ぽむ・ぽむ通信

No. **63**

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぽむぽむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



鳥取県生協



みやぎ生協



コープみえ

## ～全国の生協のハンド・イン・ハンド募金の取り組みより～

### 目次

|                                            |    |
|--------------------------------------------|----|
| ◇シリア緊急募金                                   | 1  |
| ～「失われた世代にしないために」～                          |    |
| ◇フィリピン台風緊急募金                               | 3  |
| ～台風30号（ハイエン）の発生から4か月が経過～                   |    |
| ◇知っとこ。ユニセフ アドボカシー②                         | 5  |
| ◇世界の子どもたちは今 [フィリピン台風緊急募金]                  | 6  |
| ◇生協のユニセフ支援活動                               | 7  |
| * 生協共立社 * みやぎ生協 * コープぎふ * コープみえ            |    |
| * 鳥取県生協 * おかやまコープ * こうち生協 * ユーコープ（かながわ県本部） |    |
| ◇トピックス                                     |    |
| * ユニセフ2014～2017年の新規中期計画決まる                 | 11 |
| * 2014年度 第32回ユニセフ・ラヴウォーク中央大会               | 14 |
| * 「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」                | 15 |
| * もうご覧になりましたか？『東日本大震災 緊急・復興支援活動3年レポート』     | 16 |

### ぽむ・ぽむ通信 活用のすすめ

- ・ すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ・ ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- ・ 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・ 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- ・ 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



## シリア緊急募金 ～ 失われた世代にしないために ～

ユニセフとUNHCR、セーブ・ザ・チルドレン、ワールド・ビジョンは、パートナー団体とともに、シリア紛争下にある子どもたちのための共同戦略「失われた世代にしないために（原題：No Lost Generation）」（以下、本キャンペーンと記載）を2014年1月より開始しています。本キャンペーンは、紛争下にあるシリアの子どもたちが安定した不安のない将来を描けることをめざすもので、各国政府や支援機関、一般市民の方にシリアの子どもたちを守ることと支援を呼びかけます。

本キャンペーンでは、質の保たれた教育へのアクセスも拡大します。学校へ通えていない子どもたち用のカリキュラムを導入するほか、職業訓練や教員の研修、やる気を刺激するプログラム、子どもへの更なるリスクを軽減する安全な環境を生み出すための安全な環境づくりも行われます。

### ◆ ユニセフ・シリア事務所の日本人職員による報告会



©日本ユニセフ協会

シリアの教育支援で配られているユニセフ・バッグを手にする園田さん。

2014年1月28日（火）、シリアで教育専門官として活躍する園田智也さんが、シリアの子どもたちや教育の現状に関して最新の状況をユニセフハウス（東京都港区）で報告しました。

#### ● 紛争下だからこそ、教育を

「水や食料、医薬品、すべてものの値段が上がっていき中、命の価値だけはどんどん下がっているのがシリアの現状。おとなが始めた戦争に、最も巻き込まれているのが子どもたち。破壊行為しか目にで

きない生活では、子どもたちが将来を描けない。文字通り、失われた世代になってしまう」と、教育を受けられないまま育つ子どもたちの将来を危惧し、紛争下に生きる子どもたちの苦境を語りました。

#### ● バック・トゥ・スクール ～子どもらしい日常を取り戻すために

紛争下を生きる子どもたちが少しでも日常や子どもらしく過ごせる時間や場所を取り戻すことは、心のケアになると同時に、不当な労働や武装勢力への勧誘などのリスクからの保護にもなります。

「新学期に子どもたちが学校に戻ってきやすくなるよう、筆記用具などを入れた通学かばんを用意しました。1セットで600円くらいです。わずか600円で、子どもたちの未来を支える助けになります。どうぞご支援ください」と、シリアの子どもたちへの支援を呼びかけました。



©日本ユニセフ協会

昨年9月の新学期に100万人の子どもたちに配布された通学かばんのセット

## ◆ 故郷シリアを離れ、イラクで働く 14 歳の少年

イラク東部の町、スリマニヤ。アフメド君(14)は、朝 8 時からレストランで働き始めます。

「シリアにいたときは、学校に行っていたよ。放課後は小さなお店で働いていたんだ」と話すアーメッド君。10 か月前、シリア国内の紛争を逃れ、イラクへ避難。そして、5 か月前から、レストランでの仕事を始めました。現地には学校がありますが、働くことを選びました。



©UNICEF/Iraq-2013/Noorani  
家族の生計を支えるため、学校に通うことをあきらめたアーメッドくん(14 歳)



©UNICEF/Iraq-2013/Noorani  
レストランに来た客の注文を受け、ケバブを調理しています

シリアとは異なる方言があること、カリキュラムも違うため、通ってもシリアに戻った時に修了と認められない可能性があること、そして何より、3 人の弟がいる家族の生活のために下した決断でした。

「子どもたちは学校に通っていたのです。それが今では、朝 8 時から夜の 9 時まで働いている—この気持ちをわかってもらえるでしょうか」と、鉄工場で働くアーメッド君のお父さん(45)は話します。

アフメド君自身は、良い上司とシリア人の友だちに恵まれ、働いているといいます。「仕事は問題ないよ。でも、シリアに戻りたい。学校と、昔働いていた店を思い出すんだ」

紛争はシリアの教育に大きな影を落としています。紛争前、初等教育純就学率 99%を誇り、中東で教育大国として名を馳せていたシリア。しかし、紛争でその状況は一変しました。5 校に 1 校は学校としての機能を果たしておらず、多くの子どもたちが教育の機会を失っています。

### ◆ シリア緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では、シリアとその周辺国に避難を余儀なくされている子どもに対してユニセフが行う緊急支援のための**シリア緊急募金**を受け付けています。  
あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座  
振替口座:00190-5-31000  
口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

\* 通信欄に「シリア」と明記願います。  
\* 窓口からのお振込の場合、送金手数料は免除されます。

(参考資料: 日本ユニセフ協会 HP シリア緊急募金第 81 報、第 82 報、第 89 報を編集)



## フィリピン台風緊急募金

### ～台風30号（ハイエン）の発生から4か月が経過～

フィリピンで台風30号による甚大な被害が発生してから4ヶ月余り。現地では復興に向けた支援活動が行われています。

国連人道問題調整事務所(OCHA)によると、2014年1月28日時点、フィリピン台風で被災した人々は1,410万人、内590万人が子どもです。また、住む場所を失い避難している人々は410万人、内170万人が子どもです。

#### ◆ 少しずつ進む復興活動

最も被害を受けたのは、レイテ、サマル、東部サマル、セブ島の北端、パナイに住む推計400万人の人々です。被害発生直後は交通のアクセスが寸断され、支援を届けるのに困難を極めた自治体もありましたが、現在では、被災地全域でアクセスが全面復旧し、支援が届けられています。台風によって被災した地域のなかには、台風到来前より子どもの貧困率が40%を超えていた、フィリピン国内で最も貧しいコミュニティも含まれています。



©UNICEF/NYHQ2013-1217/JEOFFREY MAITEM  
ユニセフが設置した給水場を訪れ、  
水容器に水を入れる男の子  
(レイテ島タクロバン)



©UNICEF/NYHQ2013-1222/JEOFFREY MAITEM  
レイテ島に設置された「子どもにやさしいテント」。  
ここでは玩具やレクリエーションキットが提供されている。

#### ◆ 学校の再開は復興のはじまり

ユニセフや他のパートナー団体の協力のもと、教育省と社会福祉開発省は50万人の子どもを対象にした「バック・トゥー・ラーニング(再び学ぼう)」キャンペーンを開始。「一緒に前に進もう」をテーマに、ユニセフは教材の提供や、学習スペースの設置、水と衛生施設の設置などを行っています。

教育は、悲しみに沈む心を前向きに変える力を持っています。被災した子どもたちにとって、学校に戻って勉強することは、希望あふれる未来への出発でもあるのです。

#### ◆ 被災後に生まれた小さな命 ～母親と赤ちゃんに安全な空間を～

被災した多くの母親は、避難所に身を寄せています。台風によって夫を亡くした女性もいます。彼女たちは家族や家、大切なものを失った喪失感の中で新しい命を生み、被災後は貧困に苦しんでいる母親もいます。

ユニセフはパートナー団体とともに「親子にやさしいテント」を設置し、お母さんと赤ちゃんが、台風によって受けた精神的ショックから回復できるよう、清潔で安全で静かな空間を提供しています。混雑した避難所の暮らしから離れ、母親は赤ちゃんに母乳を与えることができ、赤ちゃんは安心して遊ぶことができるのです。



©UNICEF PHILIPPINES/2013/MATEM  
クリスティーナさん。娘のキャサリンちゃん  
は台風到来の11日後に誕生。

クリスティーナさんは、娘のキャサリンちゃんを腕に抱いています。キャサリンちゃんは、台風 30 号が去って間もない、11 月 19 日に誕生しました。

「この空間にくと、ほっとします」と、クリスティーナさんは言います。「ここにくと、キャサリンと私はリラックスできて、いろいろな問題も忘れることができます」

母親と赤ちゃんたちの心を落ち着かせるための活動も行われています。地域のスタッフが、赤ちゃんと一緒にできるリラクゼーション運動の方法を教えます。セラピーグループと呼ばれる集いでは、母親たちが感情を共有することができます。

#### ◆ デイビット・ベッカム ユニセフ親善大使、タクロバンの子どもたちを訪問

2005 年にユニセフ親善大使に任命されたサッカー界のスーパースター、デイビット・ベッカム氏が、台風 30 号で甚大な被害をうけたフィリピンのタクロバンを訪問しました。

ベッカム大使は、タクロバンの主要な避難拠点のひとつである「子どもにやさしい空間」など、台風の被害にあった子どもたちのためにユニセフが展開している緊急支援活動を視察しました。



©UNICEF/ Per-Anders Pettersson  
タクロバンに設置されたユニセフの「子どもにやさしい空間」で、台風の被害にあった子どもたちと一緒に作ったバレンタイン・カードを見せるベッカムユニセフ親善大使



©UNICEF/ Per-Anders Pettersson  
ユニセフの「子どもにやさしい空間」に遊びに来ていた赤ちゃんに、手をぎゅっと握られるベッカムユニセフ親善大使。

「ここタクロバンを訪問し、台風によって大きな被害にあいながらも、エネルギーに満ち溢れるフィリピンの人たちの姿を見ることができて、本当に光栄です。およそ 600 万人の子どもたちが台風で被災し、その多くが大切な人を失っています」と、ベッカム大使は語ります。

「まだ周辺に瓦礫が散乱しているなかでも、子どもたちが日常を取り戻しつつある状況を目の当たりにし、ユニセフの親善大使としてとても感激しています。世界中から寄せられた支援が、ここフィリピンの子どもたちと家族にどれだけ大きく貢献しているか、そして、そのあたたかい支援にフィリピンの人たちがどれほど感謝しているかを、支援してくださる世界中の人々に伝えたいと思います」

今回、多くの生協でフィリピン台風緊急募金にお取り組みいただきました。  
全国の生協から 7,696 万 6,403 円もの募金が日本ユニセフ協会に送られています。

(2014 年 2 月 28 日現在)

みなさまのあたたかいご支援に感謝いたします。

(参考資料: 日本ユニセフ協会 HP フィリピン台風緊急募金第 23 報、第 24 報を編集)

知りたい?

# 知っここ。ユニセフ

アドボカシー ②

現在 日本ユニセフ協会が取り組んでいる アドボカシー（政策提言）活動の1つが・・・

## 児童ポルノのない世界

（子どもの商業的性的搾取の根絶）を目指す取り組みです。

1996 年 第 1 回「子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議」(ストックホルムで開催)で、日本が児童買春・児童ポルノの加害国として非難されたことを契機に、その活動を開始しました。

1999 年「児童買春・児童ポルノ禁止法」の成立（2004 年に一部改正）など具体的な成果をあげました。

しかし・・・

世界の多くの国で禁止されている「単純所持」(自分で見るために所持すること)は今の法律では禁止されていません\*。そして児童ポルノの問題は、インターネットの普及により、ますます複雑に、危険になっています。

\* 禁止していないのは主要国首脳会議 (G8) の参加国では日本とロシアだけ

そこで、日本ユニセフ協会は、以下のような取り組みを続けています。

2010 年 5 月

「児童ポルノがない世界を目指して」緊急アピールを政府に提出、国民運動を開始

国民一人ひとりに、児童ポルノの被害の深刻さを理解していただき、「見ない、買わない、持たない、作らせない」という行動をとっていただくための啓発活動を行っています。

「児童ポルノ排除総合対策」(2010 年 7 月政府が決定) 策定・実施への協力

官民が連携して推進する「児童ポルノ排除総合対策」には、日本ユニセフ協会の緊急アピールの内容が、取り入れられました。その実施にも積極的に協力しています。

2011 年 8 月

法改正を求める 117 万筆を超える署名を参議院議長に提出

国民運動では、児童ポルノの単純所持の違法化を含む法改正を求める署名活動を実施し、その結果、全国から寄せられた署名を国会に届けました。その後も「単純所持」の禁止を

最優先に、国会議員等への働きかけを行っています。



© 日本ユニセフ協会  
法改正を求める  
117 万筆を超える署名

民間の取り組みの後押し

2011 年 4 月、民間の自主的取り組みとして開始された児童ポルノ画像の「ブロック」、ネット上のトラブルから子どもを守るための取り組み、子ども買春根絶を目的とした旅行・観光業界のための行動倫理規範（コードプロジェクト）の推進等にも 協力しています。

ちなみに、これまでに児童ポルノ問題の他にも・・・

- ☆「子どもの権利条約」やその選択議定書の批准（子どもの兵士根絶、子どもの人身売買根絶）
- ☆子どもの貧困問題
- ☆東日本大震災後の子育て支援の仕組みづくり等に関するアドボカシー活動を行っています。

日本ユニセフ協会のアドボカシー活動へのご理解、ご協力をおねがいします。

詳しくは… [http://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_katudo\\_advocacy.html](http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_katudo_advocacy.html)



# 世界の子どもたちは今



フィリピン台風  
緊急募金

去年 11 月にフィリピンをおそった台風 30 号は、上陸した台風の中では観測史上最強のものでした。台風の進路にあった住宅や構造物の 70 ～ 80% が破壊され、学校の校舎も 90% (3,232 校) が被害を受けました。被災した人の数は 1,410 万人以上。家屋を失い避難民となった人々が多かったです。



『高潮』がおそった海岸沿いは、まるで東日本大震災の『津波』のあとのようなだった。



あの時はフィリピンの人々に助けてもらったね！  
今回のフィリピン台風には、生協はじめ、たくさんの人たちがいち早く募金してくれたからユニセフの支援活動も着々と進んでいるんだって。

1

水・衛生キット・医薬品・栄養補助食品の提供



2

携帯電話を使って、家族の発見、保護、再会の支援

3

【Rapid FTR】家族追跡・再会システム  
(Family Tracing and Reunification)

P3 もご覧ください

親子にやさしいテント



妊産婦や授乳中の  
母親のサポート



4

バック・トゥ・ラーニング (再び学ぼう)  
キャンペーン



子どもたちは学校に通うことで日常を取り戻し、心が穏やかになって行くんた。  
そして親たちは、子どもが学校へ行っている間に生活を立て直すための時間を使うことができるんだよ。

学校の再開は復興の始まり！これからのフィリピンの復興を応援していこう！

## 生協のユニセフ支援活動 *Partnership*



2013 年度も、全国の生協が「ハンド・イン・ハンド募金」に取り組みました！

「ハンド・イン・ハンド募金」は、文字通り“手に手をとって一人ひとりがボランティアとして参加する、ユニセフ募金活動です。

2013 年度も全国の生協で取り組まれ、多くの方が参加し、募金を呼びかけました。各地の取り組みをご紹介します。

### 生協共立社

酒田・新庄・鶴岡・山形の 4 地域で開催しました。

総勢 117 人のボランティアのもと、15 万 6,134 円の募金をお預かりすることができました。

# HandinHand



12 月 21 日 山形地域

#### ←12 月 21 日 山形地域での取り組み

七日町ほっとなる広場を会場に、生協共立社と、やまがた保健生協、山形大学生協、山形住宅生協から総勢 26 人の組合員、そして山形学院高校「小さな親切運動の会」の皆さん 7 人の、計 33 人で行いました。寒い上にみぞれで濡れながらの活動となりましたが、サンタの帽子を被った女子高生や組合員のお子さんの元気な声かけに、通行中の方が募金してくださいました。

### みやぎ生協

こ〜び委員会が中心となって取り組み、2013 年度は、46 全店舗、宅配全エリアで実施されました。秋まつりやサークル&カルチャー発表会などと一緒に取り組まれるところもあり、さまざまな工夫が見られました。12 月までご協力いただいた募金額は、50 万円を超えました。



みやぎ生協 名取店

また、11 月 21 日から 12 月 20 日までは、フィリピン台風緊急募金を呼びかけました。

#### ←みやぎ生協 名取店

参加者からは、「募金活動を通して、親子でボランティアの勉強ができました」「疲れたけどがんばりました」などの声が寄せられました。

## コープぎふ

2013年12月14日、前夜から降りだした雪の中で行いました。飛騨高山高校インターアクト部、はたらくねっとさんと一緒に取り組むこの活動は、今回で3回目となりました。会場となった高山市「駿河屋アスモ店」、「フレスポ飛騨高山」の街頭に総勢25人が並びました。雪の影響もあり、やや来店者が少ないようでしたが、寒さを跳ね返すようなみんなの呼びかけに、多くの方々が、温かい気持ちで応えてくださいました。



フレスポ飛騨高山



募金活動終了後は、学習会も開催しました。

募金活動終了後は、改めて、第35回ユニセフハンド・イン・ハンド募金のテーマである「栄養不良」についての学習を行いました。

＜参加者からの感想（一部抜粋）＞

- ・まず知ることが大切、次は何か活動すること。今日の募金をきっかけにして、一歩踏み出す活動をみつけてほしい。
- ・若い人が一生懸命にやっている姿勢は皆に伝わる。こうした活動を意識して広げていってほしい。

## コープみえ

三重県ユニセフ協会と協力し、2013年12月7日から24日までの期間、県内8つの会場で「世界の子もたちの笑顔のために」の想いを込めて、ハンド・イン・ハンド募金に取り組みました。



12月15日 アピタ松阪三雲店



12月22日 コープみえまつか店

## 鳥取県生協

2013年11月から12月にかけて、県内3箇所で取り組みました。寒い日ではありましたが、各会場ともたくさんの方が募金活動に参加しました。多くの方に募金のご協力をいただき、総額6万3,980円が集まりました。



中部会場は11月16日



東部会場は12月21日



西部会場は12月17日

## おかやまコープ

12月に各エリアで取り組みやすい日を決めて、コープのお店や地域のスーパーの店頭で行いました。事前にユニセフ手帳を活用して学習を行うなど、世界の子もたちの置かれている状況やユニセフの活動について理解を深め、それぞれが自分の言葉で募金を呼びかけました。

より多くの人に立ち止まってもらい、ユニセフ活動のことを知ってほしい、募金に協力してもらいたいと、事前に募金袋になるチラシやシールを配布したり、当日は店頭でハンドベルの演奏やミニバザー、募金していただいた方へユニセフフリーフレットと一緒に風船をプレゼントするなど工夫を凝らした取り組みとなりました。

今回は、4日間、8会場で開催され、子どもたちを多く含む総勢77人が参加し、16万5,191円の募金が集まりました。なお、ハンド・イン・ハンド募金の予定を変更し、フィリピン台風の緊急募金に取り組んだ会場が3会場ありました。



楽しく活動！店長サンタも頑張っています！



事前に配布したシールを貼って  
持ってきてくれました！

**このほか、多くの生協がハンド・イン・ハンド募金に取り組み、  
全国から201万6,151円が日本ユニセフ協会に送られました。  
(2014年1月31日現在)**



**こうち生協 「巨大すごろくのおこづかいゲーム」でユニセフ募金について学びました！**

※こうち生協 LPA の会は、2月3日に、小学校放課後の児童クラブで「巨大すごろくのおこづかいゲーム」を開催し、1年生から3年生の子どもたち36人が参加しました。

子どもたちはグループに分かれて、おこづかい帳の書き方、お金のやりくりの仕方、家事の手伝いなどを体験しながら、ゴールをめざしました。ゴール地点では、ユニセフの募金についても学びました。

参加した子どもたちからは、「ユニセフのことを知っておもしろかった」という感想も多く寄せられ、子どもたちが世界の子もたちに興味を持つきっかけにもなりました。

※こうち生協 LPA の会  
金融知識を身につけ、セミナーや講演会などの企画・運営をする組合員メンバーの会です。LPA 養成講座を修了し、国家資格の FP 技能士の資格を取得しています。

世界の子もたちのことを考えてみよう。募金というお金の使い方もありますよ！



## ユーコープ 神奈川県各地でカレンダー募金を開催 県内31エリア 62 会場で募金が集まりました

ユーコープかながわ県本部では、毎年 12 月から 1 月にかけてカレンダー募金が行われています。

今年度も、26 エリアの 56 会場で開催され、2 月 24 日現在、79 万 9,137 円の募金が集まりました。

ユーコープ HP 内の Web 版エリアニュースでは、各エリアのカレンダー募金の様子が報告されています。横浜南地区金沢区エリアと横浜中地区戸塚区エリアの様子をエリアニュースから紹介します。

### ユーコープが取り組む

#### カレンダー募金とは

ユーコープかながわ県本部が取り組むユニセフ募金活動の一つです。

組合員さんにご家庭で余ったカレンダーや手帳を寄付していただき、店頭に並べ、ご希望される組合員さんにお持ち帰りの際に募金いただくものです。

### 横浜南地区金沢区エリア

今年度はより多くの方にカレンダーを手にとっていただきたいと思い、釜利谷店、白山道店、六浦店の 3 店舗で開催しました。釜利谷店、白山道店では初めての試みです。六浦店では 3 年目の取り組みとあって楽しみに来て下さる方も！掘出し物もあったようで、みなさんに喜んでいただきました。



カレンダーが見やすいよう  
に掛けられていますね  
(釜利谷店)



みなさん真剣に選んでいます  
(六浦店)

### 横浜中地区戸塚区エリア

ハーモス深谷店をご利用されている組合員のみなさんは、カレンダー募金をよくご存知の方が多くいますね！開始時にはあっという間に大勢の方が殺到し、おひとりでも何枚もお持ち帰りされた方もたくさんいらっしゃいました。

わかりやすい案内がありますね  
(ハーモス深谷店)



最近では、企業からの協力でカレンダーを寄付していただいたり、余ったカレンダーを、地元の幼稚園や福祉施設に寄付したりと、地域とのかかわりも広がっています。



## ユニセフ 2014～2017 年の新規中期計画 決まる！

### はじめに

これまでもユニセフは、世界の子どもたちが健やかに成長できるように、特に重要な分野においては中期事業計画を立てて活動してきました。

今回示されたユニセフの 2014～2017 年の新規中期計画は、2015 年末に迫ったミレニアム開発目標（MDGs）の達成期限を前に、ミレニアム開発目標後の世界をも見据えたユニセフの方向性を示しています。この新規中期計画をもとに、各国のユニセフ事務所で、人々のニーズを考慮しながら支援の内容を吟味、当該国政府と協議・合意の上、「カントリー・プログラム」が作られます。ユニセフの支援は、それに基づいて実行されます。

### ★ 積み残しの課題を諦めずに

ミレニアム開発目標とミレニアム宣言の進捗状況を、ここで言い表すのは簡単なことではありませんが、ユニセフ同様、政府機関、国際機関、民間機関（NGO）等が努力を重ねた結果、現在までに達成した目標もあります。

しかし、残念ながら期限までに達成できそうにないものや、まだ努力を要するものが、ユニセフの新規中期計画の重点項目として残されました。また、今後の課題解決に向けて必要となってくるプログラムが、新たな重点項目として含まれています。

ユニセフは、これまでも女性・妊産婦と子どもの成長との関連性の深さから、女性と子どもへの支援を中心にしてきましたが、特に新生児の命を守ることを念頭に、新規中期計画では 7 つの分野別に具体的な目標数値を掲げて、支援プログラムを実施することになりました。

### ★ 7 つの分野と重点項目

大枠は今まで（2006～2013 年の中期計画）の努力の延長線上に立つものです。

①保健 ②HIV/ エイズ ③水と衛生 ④栄養 ⑤教育 ⑥子どもの保護 ⑦社会へのインクルージョン（誰もが受け入れられる社会をつくるための支援）の分野におよびます。重点項目として掲げられたのは、死亡率が高い新生児へのケア、生涯にわたり影響を与える子どもの栄養不良の削減、「世界子供白書 2013」でも主要課題とされた脆弱な立場にある子どもたちへのこれからの社会のあり方などです。

このほか、紛争や自然災害などの人道危機下における子どもの保護、「公平性」、ジェンダーの平等などが推進事項となりました。

## ユニセフ新中期計画の現状と目標

### ① 保健

#### 現状

- 毎日 1 万 9,000 人の 5 歳未満児が予防できる病気で命を失っている
- 新生児死亡の約 40% が、新生児ケアを受けられないことが原因で亡くなっている

#### 目標

- 出産の 80% が専門知識のある人によって介助を受けられるようにする
- 最低 4 回の妊産婦検診を 80% の妊産婦が受けられるようにする
- 男女の性別に関係なく、新生児の 60% が、出生後 2 日以内に、新生児ケアを受けられるようにする

### ② HIV／エイズ

#### 現状

- 340 万人の子どもが HIV と共に生き、うち 90% 以上が、サハラ以南のアフリカに集中している
- 毎日 1,000 人の子どもが、新たに HIV に感染している

#### 目標

- HIV と共に生きる子どもの少なくとも 80% が抗レトロウイルス薬による治療を受けられるようにする
- HIV と共に生きる妊婦の少なくとも 80% が抗レトロウイルス薬による治療を受けられるようにする
- HIV/ エイズ用の予算の 50% が国内予算で賄えるようにする

### ③ 水と衛生

#### 現状

- 開発途上国の 37% の人たち (25 億人) が衛生的なトイレを使えない
- 7 億 8,000 万人が安全な飲み水を飲むことができない

#### 目標

- 人道危機にある人全員に安全な飲み水を提供する
- 安全な飲み水、適切なトイレを使える家庭、家庭内に、手洗いの設備を持つ家庭が増えるようにする
- 各国が GDP の 0.5% を衛生面の予算に割くようにする

### ④ 栄養

#### 現状

- 世界では 1 億 6,500 万人が発育障害にあっている

#### 目標

- 人道危機のもとで、重度の急性栄養不良にかかっている子どもの 75% が回復できるようにする
- 年間の発育障害数の減少幅を、2025 年の世界保健総会の目標と同じにする
- 子どもの 50% が「完全母乳育児」で育てられるようにする

## ⑤ 教育

### 現状

- 小学校就学年齢にある子ども 6,500 万人の 20%が小学校の最終学年に達する前にやめてしまう

### 目標

- 女の子の 80%が就学前教育を受けられるようにする
- 小学校、中学校に通えない女の子の割合を 5% 未満に抑える

## ⑥ 子どもの保護

### 現状

- 18 歳未満で結婚する（させられる）女性が多い

### 目標

- 18 歳までに結婚する女性の割合が 25%以上の国で、同様の女性の割合を現状より 30%減らす
- 性的暴力を受けたことがある 15~19 歳の女子が 5%以上ある国で、同様の経験のある女子の割合を現状より 20%削減する

## ⑦ 社会へのインクルージョン

### 現状

- 貧困家庭、社会的排斥に遭っている世帯の子どもへの配慮が少ない

### 目標

- 最も困難な状況にある人たち、排斥されている人たちの子どもが社会的保護を受けられるようにする
- 子どもの貧困、格差に焦点をあてた国家政策をとり、予算を割り当てるようにする
- 子どもの養育者として、女性がその重責を全うできるようにし、養育者としての女性が直面する障壁に対処する社会保護制度を設けるようにする

（参考資料：ユニセフ・ニュース Vol.239 の特集 3 を編集）

## ★ 日本の生協の 2020 年ビジョン ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

国際協力の活動では、ユニセフを中心としながら、  
国連のミレニアム開発目標の実現に貢献します

2011 年 6 月、日本生協連第 61 回通常総会において「日本の生協の 2020 年ビジョン」が承認されました。その＜アクションプラン 3＞「世界と日本社会への貢献」の中に、「国際協力の活動では、ユニセフを中心としながら、国連のミレニアム開発目標の実現に貢献することが（2011 年時点で）10 年後の生協のありたい姿として書き記されています。



## 一緒に歩いて、ユニセフ募金。世界の子どもたちに笑顔をお届けませんか？



※ラブウォーク中央大会のチラシ

思い思いのペースで歩いた汗が開発途上国の子どもたちのために役立てられるユニセフ・ラブウォーク。毎年多くの方にご参加いただいている「ユニセフ・ラブウォーク中央大会」が今年も4月6日(日)に開催されます。

この大会では、ユニセフハウス(東京都・高輪)を発着点とした都会のスポットをめぐるコースを、春の陽気に包まれながら、思い思いのペースで歩いていただけます。家族、友人、職場の仲間をお誘いの上、ぜひご参加ください。今年は最大8つのアフリカの大使館前をめぐるコースを予定しています。

### 【開催日時】

2014年4月6日(日)雨天決行 受付開始 9時

### 【開催場所】

起点、ゴールともにユニセフハウス  
出発 9時30分(12キロコース) 10時(6キロコース)

### 【参加費】

大人 ¥1,000、こども(18歳未満) ¥300

### 【テーマ】『栄養不良から小さな命を守ろう!』

### 【主催】日本ユニセフ・ラブウォーク協議会

### 【申込み・お問い合わせ】

日本ユニセフ協会 団体・組織事業部まで  
(電話:03-5789-2012 / メール:[event-dr@unicef.jp](mailto:event-dr@unicef.jp))  
※会場での当日参加受付も行います。



過去の中央大会の様子

※詳しくはこちらをご覧ください。

[http://www.unicef.or.jp/osirase/back2014/1402\\_03.html](http://www.unicef.or.jp/osirase/back2014/1402_03.html)

## 「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」



このプロジェクトは日本生協連が取引先、会員生協、組合員の協力を得て取り組む、商品事業を通じた国際協力プロジェクトです。CO・OP コアノンロールや CO・OP ワンタッチ芯までロール、1 パックごとに募金として 1 円を積み立て、ユニセフによるアンゴラ共和国の《子どもにやさしい学校づくり》を支援しています。

### 第3期募金報告

2013 年 10 月 31 日に終了した第 3 期（3 年目）は、CO・OP コアノンロールや CO・OP ワンタッチ芯までロールを 10,716,658 パックご利用いただきました。しかし、円安の進行によりユニセフとの約束である 10 万 7 千ドルには不足額が生じたため、不足分を補って 11,227,510 円をユニセフにお届けしました。2010 年 11 月の開始から 3 年間の募金総額は、29,964,108 円になります。

### 第3期募金贈呈式

プロジェクトの募金贈呈式は、12 月 17 日にユニセフハウスで開催され、駐日アンゴラ大使館参事官や大使館員、8 社の協力企業の方々、日本ユニセフ協会、日本生協連など 42 人が参加しました。アンゴラ大使館参事官のクルーズさんは「ユニセフの活動はアンゴラの人々に、継続的な支援と重要な一歩を与えてくださいました。これからもアンゴラの教育システムがよくなるように支援をよろしくお願いします」と挨拶しました。プロジェクトの協力企業である大分製紙(株)の田北社長は「私たちの取り組みがどのように利用されているかを知る機会となりました。アンゴラの子どもたちがより明るくなればよいと思います」と話しました。全員での写真撮影などもあり、終始和やかに進んだ贈呈式は、2016 年 10 月までこのプロジェクトを継続することを確認し、終了しました。



↑ 募金贈呈式に出席された方々

### 「2013 年度 ユニセフ アンゴラスタディーツアー」 にいきます！

2014 年 6 月 28 日から 7 月 5 日、CO・OP コアノンスマイルスクールプロジェクトの指定募金先である、アンゴラ共和国へのユニセフスタディーツアーを実施します。参加者は、現地の様子を視察し、現地の子どもの状況とユニセフへの理解を深め、帰国後に各々の組織や地域での募金や学習などのユニセフ協力活動に生かします。現地では、実際にこのプロジェクトで支援している学校やコミュニティを視察し、子どもたちや先生たちと交流する予定です。

※なお、参加者の募集は、すでに締め切りました。



アンゴラ共和国→

もう ご覧になりましたか？

## 東日本大震災 緊急・復興支援活動－3年レポート

東日本大震災から約 3 年。日本ユニセフ協会は、被災地で国内の専門家や専門団体、自治体などの協力を得ながら、地元の人々が主体となった復興への取り組みの支援を続けています。

### Build Back Better 被災前よりも、より良い状態に

2011 年 3 月に緊急支援活動を始めた時から、日本ユニセフ協会の基本的な考え方は、「Build Back Better」＝子どもたちを取り巻く環境が、震災前よりも良い形になるような復興をめざすことです。

### Resilient 迅速でしなやかな回復力のある社会

2015 年 3 月に、仙台市で開かれる国連世界防災会議の最大のテーマは「災害被害を最小限にするための Resilient な（迅速でしなやかな回復力のある）社会づくり」。

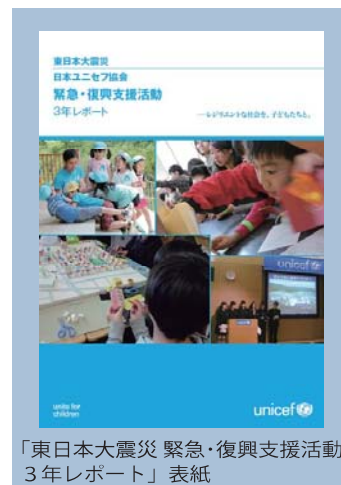
日本ユニセフ協会も Resilient な社会が被災地に生まれることをめざし支援を続けています。

その支援活動も 3 年の月日が経過。改めて、活動の様子や収支報告を『緊急・復興支援活動 3 年レポート』としてまとめました。

支援活動は継続して行われます

#### 募金受付終了のお知らせ

募金の受付は2013年3月をもって終了しましたが、「東日本大震災緊急募金」による支援活動は、さまざまな専門団体・被災3県のユニセフ協会などを通じて、今後も継続して行われます。



「東日本大震災 緊急・復興支援活動 3年レポート」表紙

### 緊急・復興支援における6つの取り組み 被災前よりも、よりよい状態になること (Build Back Better)

子どもたちが安心して戻れる、子どもたちにとってやさしい「地域」の復興

#### 3. 教育

学校・保育園・幼稚園の早期再開・再建

#### 4. 心理社会的ケア（心のケア）

子どもたちの心理社会的ケアシステムの強化

#### 2. 保健・栄養

母子に対する保健医療・栄養サービスの再開と復旧

#### 5. 子どもの保護

孤児・遺児・貧困家庭などの脆弱な環境にある子どもたちを保護する包括的な国のシステムの強化

#### 1. 緊急支援物資の提供

被災各地の避難所などへの物資支援

#### 6. 子どもにやさしい復興計画

市町村における復興計画に子どもの意見を反映し、子どもおよび子育て支援の拡充を図る

下記、日本ユニセフ協会ホームページもご覧ください。[http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/pdf/3\\_year\\_report.pdf](http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/pdf/3_year_report.pdf)

## ぽむ・ぽむ広場

### 編集後記

- ◆ 昨年7月からこのぽむ・ぽむ通信の編集会議に参加しています。10月からは実際に原稿作成に関わらせてもらっていますが、まだまだ修行中です。以前は、生協の組合員活動で、10年ほど自分の住んでいる地域の広報委員としてニュースを作っていました。その時は、ほぼ一人でニュースを作っていたので、けっこう孤独な作業でした。初めころは、すべて手書きの時代でしたが、組合員のみなさんに届けられるのがうれしくて毎月毎月発行していました。今回は、たくさんの編集委員のみなさんと一緒にいろいろ話をしながらひとつのものを作っていく楽しさを感じ始めています。それと同時に、わたしのまわりではまだまだあまり知られていない「ぽむ・ぽむ通信」を広めていきたいと思っています。(T)

ユニセフ＊コープネットワーク

**ぽむ・ぽむ通信**

No. 63 2014年3月17日発行

編集 **クルーズ ぽむ・ぽむ**

スタッフ・編集／小池・武田・立川・土橋・浜崎・  
松本・山本・石尾・中村・阿久根  
イラスト／蛸沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 ユー・プラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○次号は、2014年6月16日に発行予定です。

### ぽむ・ぽむ通信・ひとことカード

今回の「ぽむ・ぽむ通信」はいかがでしたか？ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。  
次号以降の参考にさせていただきます。

---

---

---

生協名：\_\_\_\_\_

氏名（ペンネーム可）：\_\_\_\_\_ 《 組合員・役職員・その他 》

ご協力、ありがとうございました！

右記の宛先までお送りください。 宛先：日本生協連 組合員活動部 FAX：03-5778-8125  
MAIL：[kumikatsu@jccu.coop](mailto:kumikatsu@jccu.coop)